

会員の皆様へ

関西本部事務局長 小杉豊和

◇新たな会員獲得に向けて◇

皆さまもご存じの通り、SNSの普及や時代の変化の中で全日写連の会員も徐々に減少しています。大きな理由は会員の高齢化による指導者も含めた次世代の人材不足です。あと数年で創立100周年を迎える日本最大のアマチュア写真団体は今大きな曲がり角に立ち、各都道府県本部も厳しい状況に四苦八苦しながら対応しているのが現状です。若い世代の人たちは一般的に一緒になって写真を勉強したり、撮影会に参加したりするのが苦手だと聞きますし、むしろ個人で撮影した写真をインスタを初めとするSNSにあげて承認「いいね！を押してもらおう」してもらうことで達成感を得る人が多いと聞きます。写真をコンテストに出して入賞することにはあまり興味がないのかも知れません。

ただやはり未来に写真文化を継承するためには、どんな形であれ時代の変化に合わせてながら組織を改革していくしかないのだと思います。

具体的な対策としては60歳や65歳の定年退職直後の人々をターゲットにして写真を楽しんでもらう組織に変える、昔のような“厳しい写真道場”にしない、SNSなどに上手く順応しながら新しい写真継承のスタイルを確立するなど上げられると思います。彩 girlsのように自由出席制ではあるけど、いつでも指導は受けられる上に女子会としても楽しめるクラブがヒントになるかも知れません。是非皆さまも良いアイデアがあれば関西本部事務局までご連絡下さい。100年近い歴史のある団体を継承するために。

「秋の撮影会」コンテスト
審査結果発表

〈総評〉

全日本写真連盟 関西本部
委員 今村昭一

ご入賞ご入選の皆さま、おめでとうございます。撮影会への参加者（応募者）が少ない特殊な環境下での審査は困難さを増しました。選択肢が限定される中で審査員は難しい判断を余儀なくされました。作品から何を読み取れるか、その意図が表現されているか、それが鑑賞者に伝わるか。審査員は各自の意見を提示し激しく議論しました。

撮影者にとって高野山という空間は高頻度の撮影舞台です。モチーフが狭められるリスクもあったでしょう。一方、宗教施設での撮影ですからメッセージ性の強い作品を期待しました。そうした作品が見当たらなかったのは、あるいは審査員の力不足のせいだったかもしれません。

気になる点を2つ挙げます。まず彩度の高い作品が多くありました。紅葉の撮影で彩度を上げることは手段の1つですが、色飽和が散見されました。次いで意図しないピンボケです。カメラ設定にご留意ください。

コロナ禍で撮影自体が難しい中、皆さまのご努力に敬意を表します。

審査委員：今村昭一（審査委員長）・山本桂子
・鈴木一彦・山中忠誠・水谷八重子推薦 「奥の院参道」清水圭二（貝塚市）
特選 「ほっぺ」北村始子（大阪市）
準特選 「お願いは一つ」蘆名一代（大阪市）
「修業」森山雅彦（大阪市）

入選

「ようこそ」荒川惣平（吹田市）、「光射す」
光武正弘（高槻市）、「片隅の秋」山本芳子
（高槻市）、「水面の彩」藤田緑郎（東大阪市）、
「秋の暮」中川富夫（八幡市）

大阪府本部

<春の撮影会>のご案内

新型コロナ感染状況がなかなか予測できない状況ではありますが、大阪府本部では、初めてとなる交野市私市にある大阪公立大学附属植物園で、春の撮影会を予定しています。

◇撮影会◇

日 時：4月9日（日）

10時～ 雨天決行

場 所：大阪公立大学附属植物園

京阪電車枚方市駅で交野線に乗り換え「私市(きさいち)」駅下車。徒歩約6分
受付：植物園入口を入った芝生広場
10時受付開始。参加証を配布します。
撮影会参加費：無料（会員、一般共）
入園料は各自ご負担ください。
350円、大阪府在住で65歳以上の方は150円（証明書必要）

【ご注意】

私市駅、植物園には売店など一切ありませんので飲み物、昼食の用意は事前にご用意の上ご参加ください。

◇コンテスト◇

応募締め切り：5月10日（水）

当日消印有効

応募資格：撮影会当日に参加した方。

参加証を同封のこと。

応募規定：当日の作品で1人5点以内

A4 単写真のみ

応募料：会員1,000円 一般2,000円

応募先：〒530-0005 大阪市北区中之島

2-3-18 中之島フェスティバルタワー

15階 全日本写真連盟大阪府本部

「春の撮影会」係

※詳しくはチラシまたは大阪府本部のホームページをご覧ください。

中止・変更の場合はHPに掲載しますのでご確認のうえお出かけください。

大阪府本部

2023年度 行事予定

今年度は、できるだけコロナ感染拡大前と同じように活動していくことを目標にしています。

■春の撮影会

・4月9日（日）

詳細は左記参照

■支部長及び会員交流会

・6月3日（土）

・会場：心齋橋の大成閣

・講演：肖像権と写真撮影のマナー を予定

・本部委員や個人会員も含めた交流会

（支部長宛に参加の可否を郵送でお尋ねします。個人会員の方の参加はメール or 葉書でお申込みください）

・申込み締切：5月1日（月）

・会費：6000円

■夏の撮影会（日帰りバスツアー）

・場所：岡山県高梁市吹屋地区/倉敷

（重要伝統的建造物が残る町並みで有名）

・日時：7月6日（木）予定

・詳細は後ほど

■全日本シニア写真コンテスト

・応募締め切り：9月15日（予定）

・審査委員長：ハービー・山口氏（予定）

・応募料：会員2,000円 一般3,000円

・今回の30回で最終になりますので、ふるってご応募ください。

■フォトセミナー

・9月～10月（6回）

・講師：山本 学氏（予定）

■秋の撮影会

・11月

・奈良市内でグループに分かれ撮影会（予定）

・詳細は後ほど

■冬の撮影会（日帰りバスツアー）

・2024年1月

・福井県今庄・三国の冬景色

・詳細は後ほど

読者の広場



< 船出写真倶楽部 第26回作品展 >
【森田治男「眼光」】

5枚組写真の中の1枚

「目は口ほどにものを言う」「目は心の鏡」とことわざにあるように、目は心の動きを伝える、あるいは悟られる器官でもあります。

写真作品でもアイポイントの有る無しが評価の一つになっています。

この度、我がクラブの作品展出展作品選定に際し、眼光が明確な鷺・黒猫・こうもりの3点が如何かと先生にご相談したところ、優しい眼差しのサイとカバを加えた5点組を推薦頂き、すっかり雰囲気が変わり、やんちゃ坊主とほんわかおじさんの共存する楽しい社会の写しになりました。

被写体を見るときに、第一印象だけにとらわれず、色々な角度から、大きく小さくショットを撮り、作品についても他人の意見に耳を傾ける必要性をつくづく感じました。

日本の自然写真コンテスト

締切日:プリント部門 3月28日(火)
デジタル部門 3月31日(金)

詳細は全日本写真連盟 HP、チラシをご覧ください。

< 船出写真倶楽部 第26回作品展 >
【中谷修一「提灯祭り」】

約3年に亘るコロナ禍中で、お祭の自粛・縮小・中止などが続いており、活気のある祭り撮影はなかなかできませんでした。

そんな中で久方ぶりに「ススキ提灯献灯行事」(奈良県無形民俗文化財)が執り行われました。鴨都波神社は奈良県御所市にある延喜式内明神大社であり、全国の賀茂(鴨)社の根源であると言われています。

同神社夏祭り行事も、夜9時に至る頃最後を飾る若衆会の奉納となり、それは力自慢の若衆が10の提灯を張った4.5Mほどの竹竿を操る勇壮なパフォーマンスでした。その動きを表現したく、シャッター速度を変えながら夢中でシャッターを切り続けました。

久方ぶりのお祭りを楽しむ氏子さん達を背景に躍動する若衆の勇壮さ・力強さを感じていただければ幸いです。



読者の広場



<茨木支部写真展>

【浦田一雄 「一人パフォーマンス」】

神戸市にあります湊川隧道です。明治34年に造られた我が国最初の河川トンネル跡ですが月一回のミニコンサートが行われています。

作品はコンサートの後会場に最後まで残った若者がポーズを決めて自撮りしている様子です。トンネルの光の中で浮かび上がったシルエットが面白くて撮った一枚です。



<ゼロキュ展>

【デジタルフォト09支部（辻尾伸賢）
「女ひとり」】

保津川下りを終え満足なショットもなく、さらに被写体を求め撮影の定番スポットである嵯峨野の竹林の小道をさまよいました。

当然のことながら観光客が溢れており、作品にはならないな、と思いながらもカメラを向けていました。

その時向こうから白い服の女性が現れました。人が多く期待をしていませんでしたが、

一瞬通行人が途絶え、かつノーマスクのその女性が近づき、さらに斜め上を見上げました。

千載一遇のチャンスと思いカメラを向けました。

二度と巡り合うことのない場面でした。

写真展のご案内

40周年記念 第38回枚方写真クラブ展

3月1日（水）～3月6日（月）

枚方市総合文化芸術センター

○お願い

新型コロナの感染拡大で、写真展が間際になって中止や延期になる場合もありますので、大阪府本部のホームページでお確かめの上お出かけください。

第20回全日本動物写真コンテスト <審査結果>

○大阪府本部会員の入賞者

野生部門 「はいポーズ！」時川 忠（入選）

一般部門 「ボスの謝罪」上原弘士（入選）

「美脚ママ」長原恭子（入選）

○全日写連大阪府本部ホームページ



全日本写真連盟 大阪府本部事務局

〒530-0005 大阪市北区中之島 2-3-18

中之島フェスティバルタワー15F

Tel 06-6201-8006 Fax 06-6201-0285

メール: nissyaren@osaka.email.ne.jp